

# 行方市の夢、未来を掲げ

## 中学生が描く行方市の理想像。 「こんな市にして下さい」



将来のまちづくりについて中学生が提案する「ゆめ会議」が8月9日、麻生庁舎市長室で開催され、市内の中学校の代表者12人が参加しました。この会議は、市の総合計画に将来を担う中学生の意見を取り入れようと計画され、各校でまとめた提言書を坂本市長に提出しました。

### ▼麻生中学校

#### ハートフルなめがた

現在の日本は少子化が進み、ここ行方市でも子どもたちの数が減少し、高齢者が増えてきています。今後、この現象は進んで行くと思われるので、お年寄りや介護の必要な方々でも、安心して不自由なく生活できる環境を作って行かなくてはならないと思います。未来の行方市に「高齢者や障害者にやさしいまち」の実現を期待し提案します。

### ▼麻生第一中学校

#### いきる行方市

「将来行方市に住みたいか」と聞かれたとき、私たちは「住みたい」と即答することはできませんでしたが、なぜ答えられなかったのかを考えてみると、交通事情、ショッピングなど生活に不便で、整備がされていないことが多いからだと思います。また、働くことができる職種も限られており、魅力的な住みたい街とはいえないのかもしれないとも思いました。



「自然がいきている、歴史がいきている、人がいきている行方市」になって欲しいと願います。

### ▼北浦中学校

#### 観光や水産業が盛んな行方市をめざして

行方市は、霞ヶ浦と北浦に囲まれ、この湖周辺には豊かな自然がたくさん残っています。これを観光資源として活用していくことを提案します。

#### 子育てにやさしい街・行方市

行方市は、住宅が集まっている市街地が少ないため、近所で子どもたちがふれあう機会がありません。また、行方市の中の小学校も規模が小さく、少子化の傾向が進んでいます。そのため、幼児期ずっと一人で遊んで過ごすことがないよう、子ども成長にとってプラスとなるような場所と機会をつくることを提案します。



### ▼玉造中学校

#### いつまでも喜ぶしたくなるまち、人々が集まってくるまち

まちづくりアンケートの結果、行方市への定住意識が低いことがわかりました。その主な理由として「買い物をするのに不便」「道路や鉄道・バスなどの交通の便が良くない」「レジャー施設がない」などが挙げられています。そこで、これからの行方市にとって、これらの点を改善していくことが必要だと提案します。